みなさんと議会を結ぶ

西和賀町 議会だより

No.27
平成24年7月13日号
発行・岩手県西和賀町議会

■主な内容

・**6月定例会**（6月13～15日）
脱原発宣言示す……2P
外国製薪ストーブ購入……3P
・**そのほか**
住民の声（若畑地区）……12P
あの課題の行方(第三セクター統合せず)…17P

夢をつかめ!! にしわがっ児 Vol.13

西和賀高校陸上部

一歩一歩確実に前進

6月15～18日にかけ北上市総合運動公園で行われた全国高等学校陸上競技対抗選手権大会（東北地区予選会）の男子5km競歩に出場した吉田寛典さんは21分53秒で準優勝し、インターハイ出場の切符を手にしました。（関連18P）

6月定例会
話題の中心

町長・脱原発宣言の意向示す
徐々に自然エネルギーへ

6月定例会は6月13日～15日まで沢内庁舎議場で行いました。沢内中学校の耐震補強工事契約など26案件を審議しすべて原案のとおり可決しました。脱原発宣言、薪ストーブ事業などが大きな話題となりました。すべての審議結果は5～7ページ。

東日本大震災の津波により、福島第一原子力発電所の全交流電源が喪失し、水素爆発などをおこし、史上最大の原発事故となりました。250㎞（盛岡市で）もはなれたここ岩手県でも放射線量の高い地域があり、風評被害も甚大なものになっています。このことに関し、湯澤議員の一般質問に対し町長が「脱原発宣言」の意向を示しました。→関連8ページ

一般質問でのやりとり

質問「放射線の町への影響をどのように考えているか」

答弁「事故がおこり、住民は日常の生活をすべてを失ったほか、地域社会が分散し今までのコミュニティーが維持できなくなった。あらためて、電力は地方でつくり、消費は都市部で行われているということも認識した。この風評による影響があるのも間違いない事実だが、風評被害の補償のめどはたっていない状況だ。

例えば、湯田牛乳公社でも関東圏での売り上げが前年比で3000万円ほど減少している。スケジュールをたてて、原発依存を徐々に減らし、自然エネルギーに切り替えていくべきと考える。このことが、国民生活の安全を守ることにつながる」

質問「西和賀町から脱原発宣言を発してはどうか」

答弁「私はその考え方で進めたい。原発事故に対する危機感を持ちたい。これほど広範囲にわたり、ひとつの自治体、ひとつの県の被害ですまされない影響がある。国民全体の運動が必要だと思う」

質問「脱原発は、不便を受け入れる覚悟が必要だと考えるが、便利な生活を求めるが原発は反対だというのでは両立しない。反発もあると思うが、啓もうや情報発信はどうするのか」

答弁「今まで享受してきた根本を見直さなければならない。具体的にどう行動するのか、それらも含めて情報発信していくのは必要なことだと考えている」

グリーンパワーくずまき風力発電所で大型風車を見上げる議員団

自然エネルギーへの転換

町政調査会では、平成22年8月4～5日にかけ葛巻町で視察研修を行っています。

葛巻町は、酪農を主に風力発電、たい肥を使ったバイオマス発電などで全国的にも注目をあびています。

葛巻町には、風車が12基あり、一般家庭の約1万6000世帯相当が消費する電力を発電しています。この電力は、葛巻町の年間消費電力量の約２倍の規模です。

他の自治体でも太陽光などを利用する自然エネルギー設備の整備が進みつつあります。

6月定例会の中心話題

184万円で米国製薪ストーブ購入（補正予算）

しかし選定基準が曖昧

答弁は不完全燃焼

西和賀町は、薪ストーブ利用率世界一を目指した取り組みを行っています。今回、一般会計の補正予算で薪ストーブ購入費184万円が計上されました。町では、非常時の暖房器具、啓もうのためのサンプルとして1台を購入することとしています。

補正予算審議の様子

質問「薪ストーブを184万円で購入するが、その内容は」

答弁「本来の購入目的は、災害時の暖房という考えをもっている。アメリカ製を購入するが、ストーブ本体は127万円で、このほか設置費用が57万円のため、184万円の予算を計上している。暖房面積は約130畳である」

質問「なぜ、アメリカ製なのか。それを選んだ根拠は」

答弁「比較的市場に出回っているタイプを選んだ。それがアメリカ製であった」

質問「昨年の農業まつりでは国産品も展示していたが、機種選定の際に国産品に良いのがなかったのか。

なぜ、これほど国産品にこだわるかと言えば、沢内堆肥センターでは外国製の機種を導入した。しかし、修理などのアフターサービスで大変な目にあっているので、今回もそうなりはしないかと心配するからだ」

答弁「ストーブは各社さまざまある。啓もう目的のサンプルとして購入する目的もあるので、他社のカタログなどもいっしょに展示したいと考えている。国産品も優秀だが、ヨーロッパやアメリカ製はストーブの歴史が長いので、一日の長があるとの情報を参考にした」

質問「明確な機種選定基準はなかったのか。1台127万円もするストーブである。一般家庭で石油にかわって薪ストーブを使う前提で、サンプルで購入するとすれば、保守面で満足できるものか、そういった状況も考慮する必要があるのではないか。今回導入する機種が本当に良いと絶対的な自信をもって予算計上するべきではないか」

この写真はイメージ写真です。
購入予定のストーブはこれと同じではありません。

答弁「完全燃焼にこだわった。燃焼効率にこだった結果である」

質問「沢内庁舎のワンフロア全部を暖房できるかどうかの実証なども必要ではないか」

答弁「約130畳の暖房能力があるが、災害時にそれだけの暖がとれないと意味がないので、実際にどうなのかを実証していきたい」

質問「貴重な財源なので、外国製だったらいいだろうというのではなく、やはり慎重に機種選定するべきだ」

答弁「良い点や悪い点を挙げてメーカーに伝え、製品改良に生かしてもらうなどの提案も考えている」

災害時にも強い薪ストーブが見直されています

西和賀町の面積の約9割は森林で占められています。町は、この豊富な地元の間伐材を有効に使う手段として、薪ストーブの利用に注目し、利用率世界一を目指しています。

町内の間伐材の有効活用は林業の振興につながるほか、石油エネルギーの使用量を減らすことにもなり、結果として地球温暖化防止にもつながります。

薪ストーブの温かさは輻射熱によるもので、体の芯から暖まり、炎の揺らぎは癒しにもなります。そして電気を利用しないことから、災害時にも有効だとあらためて見直されています。

町長行政報告

最大瞬間風速33・3m 西和賀の山菜安全 ほか

4月4日の左草地内での様子。電柱がなぎ倒されているほか、写真右側の車庫のシャッターも破壊され被害は甚大でした。

●4月初旬の暴風雪被害

4月3～4日にかけ県内は大荒れとなりました。

本町では、4日午前8時35分、川舟地区の盛岡地方気象台沢内観測所で最大瞬間風速33・3mと、同観測史上最大値を記録しました。

町に届出のあった被害は、一般の家屋被害が住居・非住居で4件、畜舎やビニールハウス損壊8件などで、全部で33件でしたが、幸いにも人的被害はありませんでした。

国道107号もトラック事故と風の影響で朝から夕方まで通行止めになるなど交通網や経済などに大きな影響がでました。

●医師養成事業の経過

平成24年度の医師養成修学資金貸与候補生として2人から申し込みがありましたが、残念ながら申請までには至りませんでした。

町が養成してきた浅尾和彦医師（平成22年3月卒業）は、県立中部病院での2年間の初期研修を終え、4月から一関市の県立南光病院で3年間の後期研修を行っています。

この3年間は、毎週火曜日の一般診療とその日の宿直業務、毎月第一土曜日の日直から日曜日夕方まで沢内病院で診療する予定です。

●公用車事故で注意喚起

冬期間の公用車の事故は、除雪車3件、患者輸送車1件、乗用車2件で、相手方は車両5件と建物1件でした。

町が損害賠償として負担する金額は、6件で計82万9995円で、この全額を加入保険から支払います。

公用車運転には一層の注意を持つよう注意喚起し、事故防止に努めます。

●放射能の影響なし

福島第一原子力発電所の事故以来、放射線の健康に与える影響や食物の安全性に対する関心が高まっています。

農産物などの食品の安全・安心を確保するため、放射性物質測定器を先ごろ購入し、町民の依頼による検査や学校給食などの検査を始めました。山菜は、西和賀産業公社や岩手県でも測定し、不検出または基準値以下との結果がでており、西和賀の山菜は安全であると認識しています。

しかしながら、県南地域では基準値を超える測定結果が出ており、風評を心配しています。

●長原牧場の受け入れ

福島第一原子力発電所の事故により、県内の24公共牧場の牧草が放射線基準値を超え、3000頭以上が放牧できません。

岩手県からも要請があり、緊急的な措置として奥州市管内の約20頭の肉用牛の受け入れを想定していますが、今後は相手と協議しながら進めます。

（※7月6日時点では、受け入れていません）

第8回6月定例会会期日

（6月13日～6月15日）

月　日	内　　容	関連ページ
13日（水）	諸報告	4
	一般質問　4人 ・湯澤正議員 ・淀川豊議員 ・刈田敏議員 ・髙橋昭貴議員	8～11
14日（木）	議案審議 ・報告2件 ・承認5件 ・条例5件 ・補正予算1件	5～7
15日（金）	議案審議 ・補正予算4件 ・その他7件 請願・陳情 ・継続2件・新規1件 議員発議　1件	

※6月13日は常任委員会を行いました。
※議会の回数は、定例会、臨時会も含めた怪異数で、議員の任期（4年間）での累計開催数を表します。

行政報告とは、町長や教育委員長などが町の大きな話題を議会に報告することです。
報告なので、議員は行政報告に対し質問することはできません。

私たちのくだした判断　第8回6月定例会・各議員の賛否状況

審議日	番号	議案名（一部省略しています）		審議結果	柳沢安雄	湯澤正	柿澤繁俊	中村キミイ	淀川豊	深澤重勝	髙橋雅一	児玉正彦	刈田敏	早川久衛	髙橋昭貴	佐々木正裕
6月14日	承認第1号	専決処分事項の承認	町税条例の一部改正	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	承認第2号		一般職の職員の給与に関する条例及び職員互助会に関する条例の一部改正	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	承認第3号		平成23年度一般会計補正予算	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	承認第4号		平成23年度簡易水道会計補正予算	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	承認第5号		平成23年度下水道会計補正予算	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第1号	町税条例の一部改正		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第2号	印鑑条例の一部改正		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第3号	手数料条例及び下水道条例の一部改正		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第4号	公民館条例の一部改正		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第5号	予防接種事故災害補償基金を廃止		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第6号	平成24年一般会計補正予算		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
6月15日	議案第7号	平成24年度国保会計補正予算		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第8号	平成24年度簡易水道会計補正予算		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第9号	平成24年度温泉会計補正予算		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第10号	平成24年度沢内病院会計補正予算		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第11号	ごみ収集運搬車の取得		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第12号	スクールバスの取得		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第13号	除雪ドーザーの取得		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	－
	議案第14号	除雪ドーザーの取得		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
	議案第15号	町道貝沢幹線C線防雪柵（吹払柵）設置工事請負契約の締結		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
	議案第16号	沢内中学校教室棟耐震補強工事請負契約の締結		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
	議案第17号	岩手県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
	請願・陳情	町道（中村、下左草間）の拡幅改良の陳情		不採択	●	●	●	●	●	●	●	●	●	早	●	－
		緊急時の医療・防災体制を確保するための請願書		継続	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
		30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度拡充、教育予算拡充を求める陳情		採択	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－
	発議第１号	30人以下学級実現、義務教育費国庫負担制度拡充、教育予算拡充を求める意見書		可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	早	○	－

※この他に報告案件が２件ありましたが割愛しています。

表の見方　「○」は賛成、「●」は反対、「棄」は棄権、「欠」は欠席、「遅」は遅刻、「早」は早退、「－」は表決に加わらないことを表しています。
また、佐々木議長は賛否が同数などの場合にのみ表決に参加します。

今後は各議員の賛否お知らせします

西和賀町議会では、議員の表決（賛成か反対かの意志を示すこと）は、起立によって行っています。

規則上は、「議長は、表決を採ろうとするときは、問題を可（賛成）とする者を起立させ、起立者の多少を認定して可否の結果を宣告する」とあり、傍聴しないかぎり知ることはできませんでした。

今後は、平成23年1月1日から施行している議会基本条例に基づき各議員の賛否状況をお知らせしていきます。

議員は、一般的には起立し態度を表明します。

審議の中身 このように決まりました

沢内中耐震補強ようやく始まる スクールバス2205万円で取得 ほか

報告案件

表1のとおり、一般会計と病院事業会計で23年度中の年度内に完了することができなかった事業を、24年度に繰り越すとの報告がありました。

24年度予算の補正

表2のとおり平成24年度予算を補正し、すべて原案のとおり全員賛成で可決しました。あわせて、一般会計の審議では刈田敏議員が賛成討論を行いました。

▼賛成討論

刈田敏議員

一般会計で増額補正をした1億7066万円は、6次産業事業から薪ストーブ事業など、財政難でありますが町民のみなさんにとっても必要な経費と考えます。

しかしながら、中身の根拠が曖昧な事業もあるように感じました。担当者との連絡も密にしながら今後はこのようなことが無いことを切に願い賛成とします。

承認を求める案件

●税条例の一部改正

全員賛成 ▼可決

地方税法、国有資産等所在市町村交付金法の一部改正に伴い、あわせて条例の一部を改正しました。

●一般職給与条例の一部改正

全員賛成 ▼可決

市町村職員の厚生事業を行っている「財団法人岩手県市町村職員互助会」は平成24年5月1日から「一般財団法人岩手県市町村職員健康福利機構」と名称を変更したことから、あわせて条例の一部を改正しました。

●23年度一般会計を補正

全員賛成 ▼可決

歳入歳出総額に2億7388万円を追加し71億7641万9000円としました。

年度末に確定する地方債の発行額や各種譲与税、交付金の交付額が確定したことなどから所要の調整を行いました。

●23年度簡易水道会計を補正

全員賛成 ▼可決

歳入歳出予算総額から492万5000円を減額し、予算額を3億9846万3000円としました。一般会計の処理と同様に所要の調整を行いました。

●23年度下水道会計を補正

全員賛成 ▼可決

歳入歳出予算の総額に変更はありませんが、一般会計の処理と同様に所要の調整を行いました。

条例の一部改正

●個人町民税500円アップ

全員賛成 ▼可決

地方税法などの一部改正に併せて町税条例の一部を改正しました。

東日本大震災の復興を図ることから、平成26年度～35年度までの10年間、個人住民税の均等割の税率が5000円引上げられ、3000円から3500円になります。また、県民税の均等割も同様に500円アップしますので、平成26年度からの10年間は年額1000円引き上げられることになります。

●カタカナ印も登録可

全員賛成 ▼可決

外国人登録法が廃止され、併せて印鑑条例の一部を改正しました。

漢字を使わない外国人は住民登録する際にカタカナ表記ができ、カタカナを使った印鑑も登録が可能になりました。

●手数料条例の改正

全員賛成 ▼可決

外国人登録法が廃止されたことに伴い、項目の削除など所要の調整を行いました。

●二区公民館住所を変更

全員賛成 ▼可決

町立公民館条例の一部を改正しました。川尻二区公民館は、今後旧川尻小学校跡地の一部を使用することから、公民館としての住所を変更しました。

【表1】 23年度から24年度に繰り越した主な事業

◎一般会計

事業名	繰り越す額
町道貝沢幹線C線ほか舗装改良	1940万円
町道長瀬野線道路改良	682万円
災害復旧（24年災害分）	3628万円
林道災害復旧（24年災害分）	981万円
農業災害復旧（24年災害分）	1278万円

◎沢内病院会計

事業名	繰り越す額
新病院整備事業	1695万円

【表2】 今定例会での平成24年度補正予算

項目	現在の予算額	今回補正した額	補正後の予算額	主な内容
一般会計	58億4100万円	1億7066万円	60億1166万円	たい肥センター修繕費696万、長瀬野線八年橋補修工事3000万円ほか
国保会計	9億3139万円	17万円	9億3157万円	システム改修費17万円
簡易水道会計	5億3809万円	6113万円	5億9922万円	八年橋改修にともなう配水管布設替工事6113万円
温泉会計	8060万円	190万円	8250万円	砂ゆっこ給湯設備工事、穴ゆっこ源泉水位計設置工事134万円ほか
沢内病院（資本収支）	6813万円	940万円	7754万円	新病院建設にともなう用地平面測量、開発許可申請業務、地質調査などで940万円

※ 表中の金額は、1万円未満を切り捨てていますので合計が一致しない場合があります。
※ 沢内病院会計は、民間などで採用している複式簿記会計を採用していますが、便宜上他会計と同様に表示しています。

○討論とは、各議員が議案に対して賛成、反対の意見を表明することです。

基金（貯金）の廃止

●健康被害者への給付は継続

全員賛成 ▼ 可決

平成15年に旧沢内村で実施した日本脳炎の予防接種で健康被害を受けた方への給付金は、全国町村会総合賠償補償保険の保険金を積み立てて財源としていました。この財源がなくなることから基金を廃止するものです。

健康被害を受けた方には、4分の3は国と県で、残りの4分の1を町が負担し、今まで通り給付を継続します。

財産の取得

●ごみ収集車を更新

全員賛成 ▼ 可決

ごみ収集車の老朽化にともない1台を更新します。契約額は税込み1197万円で、納車は8月24日までです。契約の相手はいすゞ自動車東北（株）岩手支社花北支店（北上市）です。

●スクールバスE号車更新

全員賛成 ▼ 可決

スクールバスの老朽化にともない1台を更新します。

契約額は税込み2205万円で、納車は8月10日までです。契約の相手はいすゞ自動車東北（株）岩手支社花北支店（北上市）です。

●除雪ドーザー更新

全員賛成 ▼ 可決

除雪ドーザの老朽化にともない13t級除雪ドーザー1台をアタッチメントでロータリーと排土板に交換できるタイプに更新します。

契約額は税込み2866万5000円で、納車は11月30日までです。契約の相手はコマツ岩手（株）（北上市）です。

基本は除雪ドーザーですが、アーム部分にロータリー装置と排土板を相互に交換して使用できる仕組みの機種です。

●除雪ドーザー更新

全員賛成 ▼ 可決

除雪ドーザーの老朽化にともない13t級除雪ドーザー1台を更新します。

契約額は税込み1506万7500円で、納車は11月30日までです。契約の相手はコマツ岩手（株）です。

工事の契約案件

●沢内中の耐震補強始まる

全員賛成 ▼ 可決

沢内中学校教室棟の耐震補強工事を行います。

契約額は税込み9240万円で、工期は11月2日までです。契約の相手はマルケイ建設（株）（北上市）です。→関連9P

●貝沢地区の吹雪を改善

全員賛成 ▼ 可決

冬期間、吹雪で雪のたまりやすい町道貝沢幹線C線に防雪柵（吹払柵）を設置します。

契約額は税込み556万5000円で、工期は12月1日までです。契約の相手は（株）田中建設（西和賀町）です。

財産取得と工事契約

予定価格700万円以上の財産取得の場合や予定価格が5000万円以上の工事請負契約の場合は議会の議決を得る必要があります。

そのほかの案件

●後期高齢者広域連合規約変更

住民基本台帳法が改正され、文言の修正など所要の調整を行いました。

みなさんの願い

●請願

・緊急時の医療・防災体制の確保を

全員賛成 ▼ 継続

【内容】前回定例会から継続の請願です。

内容は、公平公正でかつ弱者に配慮した行政サービスを推進するため、西和賀消防署の移転建設場所は沢内小県道向かいの苗圃跡地としてほしいとの請願です。

【提出者】広瀬勉さん（貝沢区長）、藤原輝夫さん（若畑区長）、高橋定雄さん（川舟区長）

【紹介議員】深澤重勝、児玉正彦

【継続の理由】町は平成24年度に消防署建設検討委員会の設置を予定しており、その状況も判断材料にしたいことから継続審査としていましたが、その後の状況に変化がないことから継続としました。

●陳情

・町道（中村～下左草間）の拡幅改良を

全員反対 ▼ 不採択

【内容】前回定例会から継続の陳情です。

内容は、本路線は幅員が狭く、スクールバスや患者輸送車の交差にも苦労します。拡幅工事を早期に行い、安全で快適な交通環境の整備をしてほしいとの陳情です。

【提出者】中島達郎さん（地域を考える会代表・小繋沢）ほか383人

【不採択の理由】アクセス道（町道小繋沢湯田線）の開通で以前と比べると利用者が減っている状況であることや工事費など財政事情などから実現の可能性が低いと判断したため。

・30人以下学級などを求める陳情

全員賛成 ▼ 採択

【内容】未来への先行投資として、子どもや若者の学びを切れ目なく支援し、雇用・就業の拡大につなげるため、①30人以下学級の少人数学級を推進すること、②義務教育費国庫負担制度の堅持とともに国負担割合を2分の1に復元すること、③教育予算の充実のため、地方交付税を含む国の予算を拡充してほしいとの陳情です。

【提出者】及川巧さん（岩手県教職員組合和賀支部長）

議員発議

請願・陳情で採択された1件は、内閣総理大臣や関係省庁に、西和賀町議会からの意見として意見書を提出しました。

○請願には議員の紹介（署名）が必要です。議員の紹介のないものは陳情として取り扱います。

議員の質問できる時間は30分です。今定例会では４人が質問しました。

一般質問

湯澤　正 議員

質問 西和賀町から「脱原発宣言」を発してはどうか

答弁 そういう方向に進みたい

質問 福島原発事故の影響による町のこれまでの調査結果と今後の対応は。

答弁 学校や保育所の放射線量を測定の結果、原発事故の直接的な影響はないと推定される。

ゼンマイやワラビの山菜類、原木シイタケの検査では放射性物質は不検出、または一般食品基準の２分の１以下で、安心して出荷し、食べることができる。町民の食品への安全・安心を確保するため、町で購入した放射能分析装置で検査をスタートする。

質問 風評被害などの影響はないか。

答弁 イベントや産業公社などで山菜の売り上げが減少している。湯田牛乳公社の販売額は関東圏を中心に前年を約３０００万円下回っている。風評被害は県全体、被災地全体に関わるのでその取り組みを県に強く要望している。

質問 国は原発を再稼働しようとしているが、この際「脱原発宣言」を西和賀町から発してはどうか。

答弁 原発事故で、平常の生活を全て失い、地域コミュニティーが破壊され、日常の産業が成り立たなくなり、加えて風評被害は甚大である。これからは可能な限り電力の切りかえ、再生可能な自然エネルギーへタイムスケジュールを持ち進めていくべきだ。

先ごろ購入した放射能簡易分析装置（沢内庁舎に設置）。
写真右下の分析器に食物を入れ測定します。
購入費は一式で約263万円です。

質問 西和賀高校存続運動は西高を残すためというよりは、むしろ『西高で学べば進学も部活も、そして何よりもよそにはない豊かな人生をおくる基礎が身につく。だから西高で学ぼうではないか』という強い意義づけが必要ではないか。

答弁 西校の魅力化では、学力向上や部活の強化を掲げ、当時の校長と進めて来た経緯がある。平成15年以降は、北上管内からの入学生が二桁となり年々増加している。これは、きちんと目標を持って取り組んだ成果である。これも継続するが、どのようにして西高の存在感や魅力を訴えていくかが課題だ。

質問 強いリーダーシップで、目標に向かって引っ張り上げるような運動も必要ではないか。過疎の深刻さで知られる島根県の、しかも離島にある隠岐島前高校では24年度に１学年１学級から２学級に増やす快挙を成し遂げた。ここから学ぶことも多いのではないか。

答弁 隠岐島前高校のある島根県海士町は合併をせずに島が生き残るという信念のもとに、高校がなくなれば島民は激減し、持続可能なまちづくりは水泡に帰すという強い危機意識で頑張っているという。謙虚に学び、力強く呼びかけて運動を進めたい。

ここが聞きたい

淀川　豊 議員

質問 本町の現在の財政状況はどうか

答弁 合併以後改善されているが安心はできない

質問 本町の財政に対する現状認識を伺いたい。

答弁 財政状況の諸指標、財政健全化判断比率の変化を見ることで財政状況を把握している。合併後の各年決算の指標の推移は、それぞれ数値が改善されており財政運営への対応はおおむね適正であると判断している。ただ、自主財源比率の低下、公営企業地方債残高の改善が今後の課題であり、決して安心できる状況にはない。

質問 今後、病院建設、火葬場建設など大型の公共工事が計画されているが財政的に耐えられるのか。

答弁 借金と返済のバランスを考えながら事業を進めていく。また、交付税はある程度減額されると予測しながら事業に取り組まなければならない。

質問 歳入に占める税金や手数料などの自主財源比率は15％と低いが、どのような見通しを立てているか。

答弁 歳入を増やすため、特に自主財源を増やしていくことは、これからも取り組まなければならない。その中でも税金の徴収率向上に取り組んでいきたい。

質問 町内小中4校の連携はどのように育まれているか。

答弁 隔月で教育委員会主催で校長会を開催しているほか、小中学校合同音楽発表会や各種研修、研究会を開催する予定になっている。4校の児童生徒、教職員が一体となり、学力向上だけでなく生徒指導や地域との連携を深め、学校経営に努めている。

質問 沢内中学校耐震工事は校舎の外側に補強フレームを取り付ける外付け方式である。最近の耐震補強工事にはアルミブレースや鉄鋼ブレース工法がとられているが、今回はコンクリートフレーム工法である。この工法選定の経緯を伺いたい。

答弁 学校現場への影響を最小限に抑える工法を選択した。教室内の採光性、換気性、視界性のすぐれたものであり、雪や風雨の影響も削減できる工法であると考えている。各種事情を比較検討し、決定した。

北上市立江釣子小学校は、沢内中学校で行われる耐震工事と同様の工法で補強済みです。沢内中学校校舎外側に写真と同種の補強が2か所に設置される予定です（写真は江釣子小）。

質問 新火葬場が建設された場合に、現在の施設はどうするのか。

答弁 新火葬場は、建設場所を選定している段階である。現在使用している火葬場は、特別な要請がない限り解体していく。

【そのほかの質問】

・各種大会派遣の基本的な考え方

質問

危険な状態の空き家対策は

刈田 敏 議員

今年の豪雪では、湯本地区内の使われていないホテルの雪庇（せっぴ）が問題となりました。非常に危険であり、緊急を要するため町で処理しました。

答弁　個人財産なので所有者に連絡する

質問　新聞報道にあった人口推計によれば西和賀町は、現状のままでは人口減少が加速し、2035年には3983人と大変な状況になると予測されている。雇用確保を促進して人口減をくいとめることが重要と考えるが今後の見通しはどうか。

答弁　過去には企業誘致が大きな役目を果たした時代もあった。企業が労働力の安価な国外で生産する状況下ではこの方向は見いだせない。地域財産を活用した産業振興で働く場の確保を拡大する考え方で、一次産業や温泉などを中心とした観光産業で働く場を確保することを大きな柱にしている。

質問　若者の雇用機会の拡大、そして定住化が必要と考えるが状況はどうなっているか。

答弁　若い人たちの働く場を確保することがこの地域を将来につなげる前提になる。町では、若年者ふるさと就職支援事業を行っており、事業を始めた平成21年度14人、22年度25人、昨年度は23人が地元企業に就職した。

　昨年度は西和賀高校から町内事業所には11人が就職を実現している。今後も西和賀高校や町内企業に協力してもらいながら事業を進めていきたい。

質問　若者住宅増築の計画はあるか。

答弁　応募状況や利用状況などをみながら必要性を勘案し、今後、必要に応じて手を打っていきたい。

質問　空き家には景観上好ましくない建物、雪や風により危険な状態にある建物もあるが、今後の対応はどうするのか。

答弁　町の空き家調査では、町内の空き家は76軒、使用不能と思われる物件は8軒ある。空き家が適正に管理されていないために引き起こる問題がいろいろ想定される。近隣に対して危害がおよぶことも考えられるが、個人財産なので本人に対策をしてもらえるように連絡することを第一義的に考えている。

質問　全国で16都道府県、31公共団体で空き家条例が制定されているが、本町の考えはどうか。

答弁　個人財産に対する問題なので慎重さも必要である。しかし、住民に対する危害がおよぶ可能性がでてくれば、強制力のある条例制定の可否も検討しながら対策を講じていかなければならないと認識している。

若年者ふるさと就職支援事業制度とは

町内に住所のある満15歳～25歳未満の若者が、町内の事業所に就職した場合、本人や事業主に対し（ひと月に若年者1万円、事業主2万円）助成する事業です。

質問

教員住宅の豪雪被害は気の緩みが原因ではないか

髙橋　昭貴　議員

沢内トレセン正面玄関前下側の教員住宅の一部はすでに崩壊状態です。
ここにある４棟（７戸）はすべて本年度中に取り壊す予定です。

質問　今冬の豪雪で、教員住宅はかなり傷んだと思われるが、教員住宅の利用状況はどうなっているか。

答弁　小学校の適正配置に伴い、入居者のいない教員住宅が増えている。

教員住宅は現在24戸あり、入居戸数が10戸、空き戸数が3戸。このほか木造の11戸は順次解体の方向で計画している。

質問　昔は、教職員のみなさんは町の教育住宅に家族とともに住みながら教鞭をとっていたが、現在はそのような形態はみかけない。しかし、今後、家族で居住を希望する教職員のために、新しい住宅を計画的に進める考えはあるか。

答弁　家族で住んでいる教員はいない。1人1戸で10戸を利用している。教員住宅を新築する前に、空き住宅が3戸あるほか、近くの住宅を利用してもらう方が有効だと考えている。

質問　利用していない教員住宅は町営住宅として利用するなどの考えはないか。

答弁　例えば上野々地区の教員住宅など一部の教員住宅は手続をとって、一般に利用させている。

質問　町の責任として施設の保守管理はしっかりやる必要があるが、今回の豪雪災害では職員が毎日そこを通勤して見ているにもかかわらず、軒が折れてしまった、という状況もあると聞いている。災害は、職員の気の緩みが原因ではないか。

答弁　緊張感と注意を持っていれば防止できた案件もあったように思う。より緊張感と責任感を持つように注意喚起していきたい。

質問　人・農地プラン（地域農業マスタープラン）をどのように考えているか。

答弁　平成23年10月に国では、食と農林漁業の再生のための基本方針行動計画を作成し、農林漁業再生のための7つの戦略を立てた。持続可能な力強い農業の実現であり、プランを作成した地域に対し、経営体の育成や農地集積などの施策や事業を集中することとしている。平成24～25年度がプラン作成の集中推進時期となる。

質問　本町の状況はどうなっているか。

答弁　本町では農業所得や人口の減少で活力が失われており、農業労働力の減少は引き続き拡大すると予想している。こうした中、地域の担い手を特定し、土地の流動化計画を考えることは非常に重要であり、早急にプラン作成に取り組みたい。

質問　どのようにプランを作成するのか。

答弁　地域の実情に合わせたきめ細やかな対応が必要だ。6～7月はすべての農家の意向調査、8～10月は中心となる経営体の選定や意向調査の分析。11～12月はプラン案の作成と集落説明、1～3月にはプランの審査と正式決定という日程で考えている。

緊張感と責任感を持つように注意喚起したい

答弁

住民の声を聴く会

若畑地区で実施

町政調査会（湯澤正会長）では、町民のみなさんに議会の活動をより身近に感じてもらえるように議員との対話を通じ、みなさんの要望や想いを町に届けるために「住民の声を聴く会」を行っています。

今回は、若畑地区からの要請で6月26日に若畑公民館で行いました。議会としてその場で回答できるものは回答し、回答できないものは意見や要望として報告書にまとめ町長に提出します。会議の様子を要約してお知らせします。

会議には24人の地区の方が参加してくれました。ありがとうございました。

病院も消防署も遠く安心できない

病院建設・医療関係

質問　新病院の建設場所を決めた経過、議会としての考えを伺いたい。

答弁　場所は色々意見があるが、町の考えは大野地区で進んでいる。議会としては、全員ではないが大野地区でやむなしとの考えが多い。

質問　大野地区では若畑や貝沢地区からは遠くなる。そのデメリットを考慮しているか。

答弁　ドクターカーなどの考えもあるが、不利な地域への対応策はこれからである。

要望　新病院建設後は、医師を確保し往診で対応することをはっきりと示してほしい。病院も消防署も遠くここの地区の住民は安心できない。患者バスを出すとの考えもあるが、いずれ歳をとればバスにも乗れなくなるので介護タクシーなども検討してほしい。

意見　新沢内病院の建設にあたっては、新病院に見合った医師・職員のみなさんの心がけに期待したいし、サービスも良くなってほしいので頑張ってほしい。

そのほかの生活関係

要望　若畑公民館は古材を活用しすでに30数年経過している。建て替え要望は平成21年10月から行っていたが、やっと本年度予算に調査費がついた。さらに消防屯所も古く、平成25年度まで建てる予定になっている。地区としては、平成25年度までに公民館と消防屯所を合築してほしい。

意見　山菜をとる入山者への対応が統一されていない。入山者とのトラブルや監視者の高齢化などで徴収も難しく、入山規制などの条例化の検討が必要だと考える。

要望　県道に歩道を設置してほしい。

要望　大荒沢地区は、自然水利が無いので消火栓を整備してほしい。

要望　大荒沢橋は古く補強しているものの、崩落すれば地区が寸断されるため、予備の橋を整備してほしい。

要望　小荒沢川は河川改修されたが、立木が生い茂り氾濫する恐れが出てきたので伐採してほしい。

要望　貝沢・若畑は北の玄関口だが、産直ハウス付近にトイレの増設、案内板、東屋など、玄関口にふさわしい整備をしてほしい。

ドクターカーとは

一刻を争う緊急事態には、医師や看護師が救急現場に駆けつけることで早期の対応が可能になり、救命率も向上します。医師らを同乗させ医療器具なども常備した専用車両をドクターカーといいます。

6月定例会の総括

西和賀町議会では、平成23年1月1日から施行している西和賀町議会基本条例に基づき定例会の終了後に総括会議を行っています。議員自らが定例会での改善点を洗い出し、課題の把握や政策形成の方向性を見定めながら議会運営に生かそうとする取り組みのひとつです。6月18日の総括会議の様子をお知らせします。

意見1

西和賀消防署を沢内小学校の道路向かいに建設してほしいという請願は、再び継続審査と結論づけたが、その理由は「町の動きも判断材料にしたいが、町の動きが見えない」というものだった。

全員が継続審査に賛成したが、当局の動きとは関係なしに、議会としての意志を示すべきではなかったか。

意見2

6次産業化とは何かと、町民のみなさんから尋ねられる。分かるようでわからない、とのこと。6次産業化のことは今回も話題になったが、当局の説明も不十分で、我々の質問も中途半端で追求しきれていなかった。この事業は前に進めて行かなければならないが、当局も本気になり緊張感をもって進めてほしい。

意見3

議案説明で口頭の説明ではわかりにくい点が多々あった。本来ならば説明のために事前につけていいはずの資料が準備されていないなど横着である。言わないと提出しない姿勢にも問題がある。

当局は、丁寧な資料を添付し説明するように努力してほしい。

意見4

いつもの定例会に比べ一般質問者が4人と少なかった。一般質問はできるかぎり質問するべきである。質問することで、当局の緊張感も高まり、職員にも刺激を与えることができる。町と議会のバランスもあるのでできるだけ質問してほしい。

総括会議の様子

意見5

質問をぶつけても、町は回答に時間を要したり窮する場面があった。また、根拠がなかったりと回答に誠意がみられず、自信が無いように思えた回答もあった。

事前にしっかりと予習しておく、あるいは担当者まかせにせず、事業を把握しておくなど緊張感をもって回答してほしい。

総括会議まとめ

自分たちに対して NO!!

1. 請願・陳情審査では、議会としての判断をするべき
2. 一般質問がいつもより少なく、当局の緊張感も希薄だった
3. 質問も中途半端で追求しきれない部分があった

町に対して NO!!

1. 根拠が曖昧で明確な回答を得られないものが多かった
2. わかりやすい資料を添付するなど努力してほしい

ひゃくじゅついっせいにしかず　第五回

百術不如一誠

議長　佐々木　正裕

消防操法大会と防災体制の強化

さる6月24日に西和賀町消防操法大会が錦秋湖グラウンドで行われました。言うまでもなく、各地区対抗で競い合うことで消防団員の消防機械器具操作の習熟と向上を図ることを目的としています。

今大会では、ポンプ車で第4分団第2部（太田）と小型ポンプで第4分団第1部（前郷）が優勝し、ほか3隊が7月8日錦秋湖グラウンドで行われた北上支部大会に出場しました。小型ポンプで第6分団第3部（貝沢）が優勝の栄に輝き7月27日の県大会に出場します。

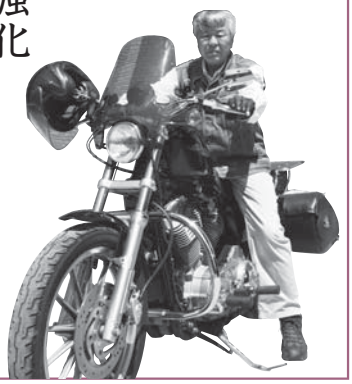
今一つは、東日本大震災をふまえて消防防災体制のあり方を考えなければなりません。

消防の源は、義勇の精神にあります。これに携わる人々は危険を顧みず、報酬を求めず、黙々と地域住民の生命と財産を守ってきました。消防団はまさに誇り高き集団です。

消防防災体制の強化には私たちの意識改革も必要で、自分の命は自分で守るという「①自助」という考え方。消防団、自主防災組織、ボランティアなどがお互いの力をあわせて助け合う「②共助」。国や地方公共団体の行う「③公助」と、3つの助け合いの充実強化を図ることが重要とされています。

一方で、装備や設備の充実も欠かせません。市町村庁舎や防災庁舎、災害対応の拠点となる避難場所の高い安全性と一定期間まかなえる非常用電源設備、備蓄物資、非常用通信設備を強化していくことも重要です。同時に、地域コミュニティーの核である消防団の存在が重要な意味を持ちます。

近年社会構造の多様化に対応し、意識改革への啓もうや消防団の装備や施設設備の充実を図り、西和賀町議会としても消防防災意識の高揚のため尽力したいと考えています。



※「百術不如一誠」は、議長の所感などを毎号掲載しています。

議会行動

平成24年3月定例会以降の議会公式行動

3月
11日　大槌町東日本大震災慰霊祭「大槌町」　議長
14日　沢内中卒業証書授与式　議長ほか
湯田中卒業証書授与式　副議長ほか
消防表彰受章記念祝賀会「町内」　議長
16日　沢内小卒業証書授与式　議長ほか
17日　湯田小卒業証書授与式　議長ほか
23日　北上市議会正・副議長退任あいさつ「議長室」　議長、副議長
26日　新町保育所卒園式　議長ほか
教職員辞令交付式「町内」　議長
教育委員会・体育協会表彰式「町内」　議長
まちづくり講演会「町内」　議長
27日　農業農村振興プラン推進の集い「町内」　議長
28日　西和賀町病診連携推進会議「町内」　議長
30日　町職員辞令交付式「町内」　議長
4月
2日　教職員着任式「町内」　議長
5日　消防関係者歓送迎会「町内」　議長
6日　西和賀高校入学式　議長ほか
湯田中入学式　議長ほか
沢内中入学式　副議長ほか
7日　湯田小入学式　議長ほか
8日　北上地方交通安全協会沢内支会総会「町内」　議長
9日　沢内小入学式　議長ほか
11日　転入教職員等歓迎会「町内」　副議長
12日　北上市議会正・副議長就任あいさつ「議長室」　議長、副議長
11日　志賀来振興会設立総会「町内」　議長
19日　西和賀農業振興センター総会「町内」　議長
22日　町村議会議長会臨時理事会「盛岡市」　議長
23日　春の交通安全功労者等表彰式「北上市」　議長
24日　平泉町議会正・副議長就任あいさつ「議長室」　議長、副議長
26日　北上・和賀地区戦没者追悼式「北上市」　議長
30日　沢内遺族会総会「町内」　議長
5月
8日　県南地区議会議長会総会「金ヶ崎町」　議長、副議長、局長
11日　雫石町議会議員視察対応「議員会議室」　議長、議運委員長、局長
13日　消防演習「町内」　議長ほか
19日　消防演習第4分団慰労会「町内」　議長ほか
19日　沢内中運動会　議長ほか
22日　湯田中運動会　議長ほか
20日　西和賀商工会通常総会「町内」　議長
21日　納税貯蓄組合連合会定時総会「町内」　議長
24日　森林エネルギー利用促進協議会総会「町内」　議長
25日　西和賀町観光協会総会「町内」　議長
24日　町村議会議員研修「盛岡市」　議員3人、局長
25日　西わらび出発式「町内」　議長
26日　北上中部拠点都市協議会監査「町内」　議長
湯田小大運動会　議長ほか
沢内小大運動会　議長ほか
28日　西和賀高校教育振興会総会「町内」　議長
29日　第37回町村議会議長・副議長研修会「東京」　議長、副議長
～30日
湯田温泉峡旅館組合通常総会「町内」　産建副委員長
30日　エステック株主総会「町内」　議長、産建副委員長
6月
1日　新田郷コミュニティー雪つばきの里開所式「町内」　議長
西和賀高等学校存続対策委員会総会「町内」　議長
3日　ワークステーション湯田・沢内開設10周年記念式典・祝賀会「町内」　議長
7日　軽米町議会議員視察対応「議員会議室」　議長、議運委員長、局長
9日　湯田ふるさと会総会「東京都」　議長
11日　国体岩手県準備委員会第6回総会「盛岡市」　議長

議会内部の会議は省略しています。また、行事名も一部省略しています。

このように使いました

議長交際費をお知らせします

（平成24年3月～6月までの内訳）

お祝い	5件	2万2000円
会費	9件	3万5000円
お悔み（花輪なども含みます）	なし	0円

産業建設常任委員会→関連７P

陳情の審査判断のため現地入り

請願陳情は「その趣旨」、「実現の可能性」などの観点から総合的に審査しています。

産業建設常任委員会（柿澤繁俊委員長）では、５月７日に現地調査を行いました。これは、３月定例会で継続審査としてあった「町道（中村～下左草間）の拡幅改良の陳情」審査の判断材料にするために行ったものです。

６月定例会では、結果としてこの陳情は不採択となりました。町道小繋沢湯田線（湯田牛乳公社から穴明地区のアクセス道）の開通で交通量が低減していることや財政的に厳しいとの判断からです。

請願や陳情はみなさんの思いや願いを関係部署に届ける方法のひとつです。請願や陳情の出し方は町のホームページか議会事務局にお問い合わせください。

議会基本条例

普及啓発のため各議会を受け入れ

議会基本条例制定に向けた雫石町議会議員のみなさんの決意を垣間見ました。

西和賀町議会では、平成22年12月定例会で議員提案により県内町村に先駆けて、議会基本条例を制定しました。この条例制定は全国的な大きな流れであり、各議会も避けて通れない課題になっています。

５月11日雫石町議会から猿子恵久（さるこしげひさ）議長をはじめ、総務常任員会（谷地善和委員長）のみなさんが、６月７日には軽米町議会のみなさんが、本条例制定までの経過などを調査しにお見えになりました。８月３日には宮城県大郷町議会のみなさんが同様の調査でお見えになる予定です。

西和賀町議会では、少しでも参考になればと、各議会の調査を受け入れています。

県南地区議長会

住田町で議員研修会

住田町の独自の強み（林業）を生かした被災者支援に取り組んだと話す多田町長。

西和賀町議会、平泉町議会、住田町議会、金ケ崎町議会で組織する県南地区町議会議長会（会長　青木幸保平泉町議会議長）では、７月６日に議員研修会を行いました。

研修会は住田町のホテルグリーンベル高勘で４町議会から60人あまりが参加して行われました。研修会では、「住田町の林業の取り組み」と題し、多田欣一住田町長から講話をいただきました。住田町は林業の町としても知られており、東日本大震災では早期に町内木材を利用した被災者住宅を建設しました。多田町長は、「議会からの理解も得られスムーズに建設することができた」などと当時を振り返っていました。

学校へ行こう

町内小中学校を参観

議員が子どもの頃と比べると劇的に変化した教育環境
写真は湯田中学校での様子。

西和賀町校長会（会長：小笠原京子沢内小学校長）では、町内小中学校を地域に開かれた学校とするため、地域の誰もが授業参観などができる日を設定し月に１回の割合で学校を公開しています。

７月２日この学校公開日にあわせて本町の議会議員が小中学校を訪れて授業の様子などを参観しました。各学校とも学校教育目標やまなびフェストなどで特色ある学校づくりをしており、各学校では学校長とも懇談をしながら本町の教育における問題や課題などを共有しあいました。

議員らも昔の自分たちとの環境と比べながら、現在の学校教育に対する理解を深めました。

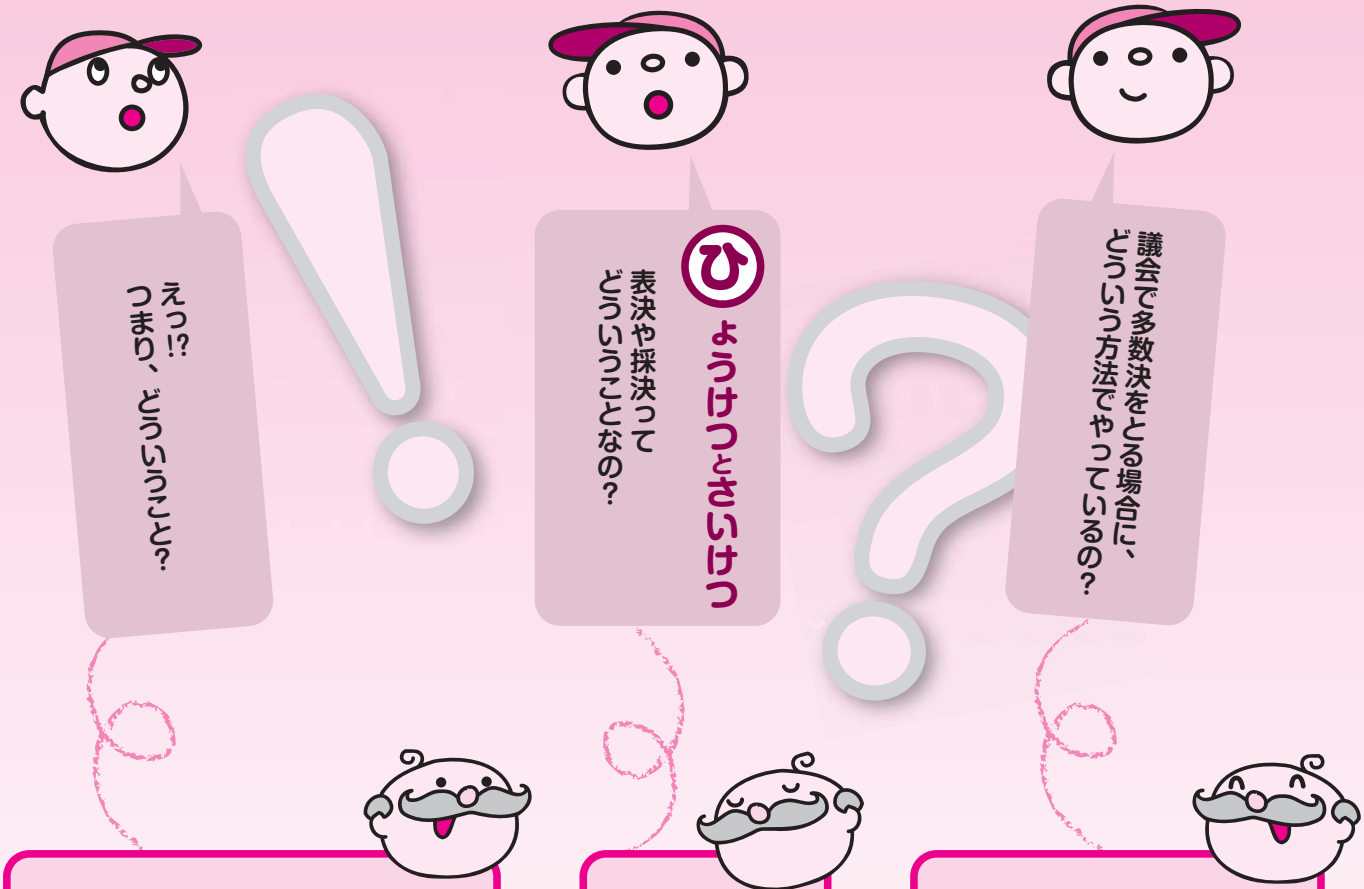
知ってるようで知らない 議会deお勉強!?⑨

今回は

「表決と採決」とは

に関してじゃ

●議会の仕組みや難しい用語をできるだけやさしく説明していきます。



大きくわけて3つじゃな。ひとつは、議長が議員に異議がないかと問いかけて、そのかけ声のあるなしで判断する方法。ふたつ目は、議員を起立させてその数の多少で決める方法で、一般的なのはこの方法じゃ。

みっつ目は投票によって決める方法がある。さらに、投票で決める場合には、自分の名前と賛否を書く記名投票と、自分の名前は書かずに賛否だけを書く無記名投票という方法があるんじゃよ。

確かに紛らわしいな。表決とは、各議員が賛成か反対か意志を表明することをいうんじゃ。これに対して、採決とは、議長が表決をとることで、議員に表決を求めることをいうんじゃ。

まだわかりにくいか。実際の議会でのやりとりを想像してみるといい。

例えば、議長はA案件に関し「表決を行います」と議員に宣言して、A案件に賛成の議員を起立させる。これが議長による採決じゃ。議長は、起立者の多少を見定めて、原則は出席議員の過半数以上の賛成をもって「採決の結果、A議案は可決されました」などと宣告するんじゃよ。

また、議長は採決する場合に、問題を可（賛成）とする議員を起立させることなどが決まっておるんじゃ。

※国会では押しボタン式も採用されています。

シリーズその後を追う⑯

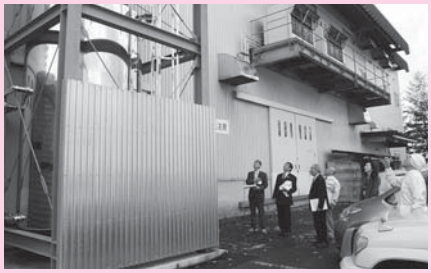
〔このコーナーでは、議員が一般質問などを通して町に問いただしたことが、その後にどうなったかをお知らせします〕

あの課題はどうなった？

第三セクター統合は時期尚早

経緯

町が出資している第三セクターは、㈱湯田牛乳公社、㈱エステック、㈱西和賀産業公社、㈱山の幸王国の4社があります。町は、合併以後の産業振興の重要課題として各社の経営改善に対する取り組みを行ってきました。



昨年11月西和賀町監査委員による湯田牛公社に対する1億円の貸付金の監査の様子。監査結果は、町ホームページに全文を掲載しています。

議会では

一般質問でも各社の経営状況、あるいは今後の町の取り組みや方向性を問いただしてきました。

また、町政調査会で各地区や各種団体からご意見や要望などを聞く、住民の声を聴く会の場でも『第三セクターに毎年多くの支出をしているが赤字経営で、これに対する町の改善の様子がまったく見えない』などの厳しいご意見が寄せられていました。

結果

町では㈱湯田牛乳公社、㈱エステック、㈱西和賀産業公社の3社の統合を前提として、昨年、高橋智副町長を会長に第三セクター統合協議会を発足し検討を行ってきました。

先ごろ同協議会から報告書が発行され、それには平成24年3月での統合は時期尚早であると結論づけています。その理由に、①経営基盤が弱いこと、②3社の連携が強化されつつあること、③人材不足を挙げ、各社の取り組み方針などが報告されています。

町は、同協議会への補助金として本年度390万円（昨年度375万円）を支払う予定です。同協議会は今後も継続して設置し、各社の改革を一層進めていくとしています。

また、今回の補正予算で、湯田牛乳公社に対し販売促進補助金450万円が追加されました。高額な補助金なので、議会としても今後これらの問題をあらためて調査していくことにしています。

補正予算審議のやりとり

質問 湯田牛乳公社に販売促進費450万円を補助するがその内容は。

答弁 東日本大震災の風評被害で、湯田牛乳公社の関東圏での取り引きは販売額で300万円ほど減少している。

マスコミを活用した安心安全PRとして157万円、通信販売の利用拡大に180万円、そのほか工場見学の受け入れ整備などに補助する。

質問 平成23年度の湯田牛乳公社決算は黒字だと聞いている。黒字で高額な補助をする趣旨は何か。

答弁 黒字とはいえ、赤字をださなかった程度である。そのため支援は重要である。

みなさんと議会を結ぶ
西和賀町 議会だより
No.27

夢をつかめ!! にしわがっ児 Vol.13
西和賀高校陸上部

本コーナーは小中高生のクラブ活動などを紹介していきます

３年生が引退し、２年生８人と１年生６人の新しい体制になった西和賀高校陸上部。陸上経験者が少ないというハンディを背負いながらも、インターハイというひのき舞台での活躍を目標に日々練習に励みます

次の大会の主役は僕たち私たちだと意気込む部員のみなさん。

部長兼主将
阿部智寛（ともひろ）さん
（2年・北上・東陵中出身）

ひとつひとつの練習を大切にし、各種大会では常に上位大会への出場を目指し取り組んでいます。吉田先輩のように、次の大会では僕たちが大きな舞台に立ち主役になれるように頑張っていきます。

吉田寛典（ひろのり）さん
（3年・若畑）

インターハイ出場は昨年に続き2度目なので、今度は表彰台に立ち今までの成果を残すことが目標です。

今は暑さ対策と持久力をつける練習を中心に行っています。競技の流れを見極め、場の空気を読み、経験を生かし、恐れずに全力で臨みます。

全国高等学校総合体育大会（2012 北信越がかがやく総体）は7月28日～8月20日まで新潟県ほか4県で行われます。陸上競技は7月29～8月2日まで東北電力ビッグスワンスタジアム（新潟市）で行われます。

おなが～く「生涯現役」です (13)

本コーナーは老人クラブの活動などを紹介していきます

長瀬野老人クラブ 会長
髙橋正慶（まさよし）さん
（82歳・長瀬野）

昭和38年の設立当初は、長瀬野、両沢、弁天の3地区が一緒でしたが、現在は長瀬野区と両沢区が対象区です。設立時の会員は104人と記録が残っていますが、現在は48人です。会員の高齢化も進み、超高齢化で、町内できっと一番かもしれません。

クラブでの活動はボケ防止も兼ね「一日に一回は大きな声で笑う」ことを合いことばに、月1回の公民館での集会、沢内バーデンのふれあい事業を中心に行っています。

公民館での集まりでは、カラオケ、間違い探し、座ったままの体操なども行いながら盛り上がっています。

新年会や忘年会は毎年欠かせませんが、昨年から研修事業を始め、手始めに盛岡手づくり村を見てきました。いくつになっても学ぶことに遅すぎることはありません。

今後は、ほかの地区の老人クラブとの交流会なども企画し、よりよい老人クラブになるように活動したいですね。

平成21年第77回長瀬野地区敬老会では欠席者も含めての記念写真を会員に配付しました。

暫時休憩

先般、主要地方道花巻大曲線・花巻沢内間整備促進期成同盟会の総会に出席してきました。私は今回で2度目の総会参加です。

周知のとおり当該路線は平成14年に「銀河なめとこライン」の名称で暫定開通はしたものの、その後は休工中となっておりました。さらに、昨年3月11日の東日本大震災もあり、県としても予算すら計上できない状況でした。

しかし、本年は被災地の復興元年であります。この事業も少し動き出しました。まだまだ全線開通まで前途多難でありますが、ようやく動き出したので、早期に全線開通できるように町民のみなさんとともに活動していきたいと考えています。

（編集委員　髙橋昭貴）

【議会だよりは私たちが編集しています】
編集長　佐々木正裕
編集委員　髙橋　昭貴
〃　中村キミイ
〃　刈田　敏
〃　淀川　豊

発行日／平成24年7月13日・年4回発行
編集／岩手県・西和賀町議会広報編集委員会
印刷／鶴田印刷株式会社・横手市

発行人／岩手県・西和賀町議会議長　佐々木正裕
〒029-6602 岩手県和賀郡西和賀町沢内字太田2地割81番地1
西和賀町（沢内庁舎）TEL0197(85)3416 FAX0197(81)2008

VEGETABLE OIL INK